

2022年 日本代表選手の選考方法(女子体操)

2022年1月31日

女子体操強化本部

□ 派遣大会 (開催地、期日、選手数)

- 1 2021ワールドユニバーシティゲームズ (中国/成都、6月、正選手5名/補欠1名)
- 2 第19回アジア競技大会 (中国/杭州、9月、正選手5名/補欠1名)
- 3 第51回世界体操競技選手権 (イギリス/リバプール、11月、正選手5名/補欠3名程度)

□ 日本代表選手の選考大会

1 第76回全日本体操競技選手権大会 4月21日～23日 (以下、全日本個人総合)

- ・全日本個人総合有資格者72名、ワールドユニバーシティゲームズ(以下、ユニバー)枠有資格者12名が予選に出場。但し、ユニバー枠での全日本有資格者はNHK杯の出場資格を持たない。
- ・予選の上位24名が決勝に出場。
- ・跳馬は1跳躍とする。以下の代表選考については1跳躍の得点を採用する。

2 第61回NHK杯 5月14日 (以下、NHK杯)

- ・全日本個人総合の上位24名が出場。
※全日本個人総合決勝にユニバー枠の選手が進出した場合、24名未満の出場となる。
- ・NHK杯の順位は、全日本個人総合予選および決勝の得点を加算して決定する。
- ・跳馬は1跳躍とする。以下の代表選考については1跳躍の得点を採用する。

3 第76回全日本体操競技種目別選手権大会 6月18日～19日 (以下、全日本種目別)

- ・予選は下記①②より各種目24名が出場。
 - ① 全日本個人総合予選、全日本個人総合決勝、NHK杯の3試合より、各試合の種目別得点が上位8位までの選手に出場資格を与える。
 - ② ビデオ審査(詳細は後日発表)の上位選手より、①の有資格者を含めた各種目24名までの選手に出場資格を与える。跳馬は2跳躍の平均得点を採用する。
- ・決勝は予選の各種目、上位8名が出場。
※2021年世界選手権の種目別メダリストを該当種目の決勝にシードする。但し、該当選手が予選に未出場、または予選9位以下の場合、当該種目の決勝進出者を9名とする。
- ・跳馬は予選、決勝ともに2跳躍とする。全日本種目別の予選および決勝の順位は、2跳躍の平均得点を採用する。但し、以下の日本代表選考については1跳躍目の得点を採用する。

□ 日本代表選手の選考方法

1 ワールドユニバーシティゲームズ選考方法

＜代表選手5名＞

全日本個人総合の上位5名を選出する。

＜補欠1名＞

全日本個人総合の次点者1名を選出する。

※全日本個人総合決勝進出者の中に、ユニバー出場有資格者が日本代表選手数(補欠含む)を下回る場合、全日本個人総合予選の成績より選出する。

ユニバーの代表選考に関するタイブレークについて

- 1 全日本個人総合決勝の得点が高い選手を上位とする。
- 2 全日本個人総合決勝のDスコア(4種目の合計)が高い選手を上位とする。

2 アジア競技大会選考方法

＜代表選手5名＞

NHK杯の上位5名を選出する。

＜補欠1名＞

NHK杯の次点者1名を選出する。

※下記記載の世界選手権代表選考①により選出された3選手が、ユニバーの代表資格を有する場合は、該当選手のアジア競技大会の派遣を協議のうえ決定する。

アジア競技大会の代表選考に関するタイブレークについて

- 1 NHK杯の得点(全日本個人総合の得点を除く)が高い選手を上位とする。
- 2 全日本個人総合決勝の得点が高い選手を上位とする。
- 3 NHK杯(全日本個人総合の得点を除く)のDスコア(4種目の合計)が高い選手を上位とする。

3 世界体操競技選手権大会選考方法

＜代表選手 5名＞

① NHK杯の上位3名を選出する。

② チーム貢献得点(A)より1名を選出する。(NHK杯10位までの選手が対象)

③ チーム貢献得点(B)より1名を選出する。(条件なし)

＜補欠3名以内＞

④ 代表選考①より、NHK杯の次点者1名を選出する。

⑤ チーム貢献得点の次点選手2名以内を選出する。

チーム貢献得点(A、B)の選出について

代表選考①で選出された3選手と組み合わせたチーム得点(5選手のベスト3得点)が最も高くなる選手2名(A、B選手の組み合わせ)を選出する。

チーム得点(ベスト3)の算出について

- I ①の3選手の得点は、予選3試合(全日本個人総合予選、全日本個人総合決勝、NHK杯)のうち、各種目の上位2試合の平均得点を採用する。
- II ②③のチーム貢献得点(A、B)は、予選5試合(全日本個人総合予選、全日本個人総合決勝、NHK杯、種目別予選、種目別決勝)のうち、各種目の上位2試合の平均得点を採用する。
※ユニバーサドで出場した選手の全日本個人総合予選および決勝の得点は採用不可とする。

世界選手権の代表選考に関するタイブレークについて

- I 選考①④個人総合得点のタイブレーク
 - 1 NHK杯の得点(全日本個人総合の得点を除く)が高い選手を上位とする。
 - 2 全日本個人総合決勝の得点が高い選手を上位とする。
 - 3 NHK杯(全日本個人総合の得点を除く)のDスコア(4種目の合計)が高い選手を上位とする。
- II 選考②③⑤チーム貢献得点(A、B)のタイブレーク
 - 1 チーム得点(5選手のベスト4)が高くなる選手2名の組み合わせを上位とする。
 - 2 NHK杯の順位が高い選手を含む2名の組み合わせを上位とする。

正選手から補欠選手への交代について

詳細は、代表選考会の開始までに決定し公表する。

その他

- ・各代表選考会において、国籍および年齢等の参加条件を満たす選手のみを選考対象とする。
- ・上記の選考方法では順位が確定しない場合は、強化本部長の提案により、選手選考委員会で決定する。
- ・全日本選手権(個人総合・種目別)の予選通過に関するタイブレークは大会規定に準ずる。